

# 6. 地域公共交通計画の達成状況の評価と推進体制

## (1) 評価指標と目標値

目指す姿に対応した本計画の評価指標及びその目標値を次のように設定しました。

目指す姿	評価指標	検証方法	現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)	検証時期
1	指標1 交通手段がないために外出できなかったことが「よくある」「たまにある」と答えた人の割合	市民アンケート	10.6%	8.5%以下	令和12年度
2	指標2 広域幹線軸及び市内幹線軸として位置付けた路線の利用者数	運行実績	214,621人 (令和6年度)	215,000人	毎年度
	指標3 運転免許証を持っていない人の趣味・娯楽・習い事などの外出頻度	市民アンケート	20.8%が週1日以上 の頻度で外出	30%以上が週1日以上 の頻度で外出	令和12年度
3	指標4 平均乗車人数が2.0人未満の市運行生活路線	運行実績	47系統	16系統以下	毎年度
	指標5 地域公共交通の見直し及び新たな交通モードの導入地域	実績	1地域(総領)	年1地域以上	毎年度
	指標6 区域運行サービスの導入地区数	実績	93地区	年1地区以上	毎年度
4	指標7 休日に公共交通を使って移動する高校生の割合	高校生アンケート	33.1%	40%以上	令和12年度
5	指標8 市外への通勤・通学・通院における公共交通利用率	市民アンケート	【通勤・通学】 5.8% 【通院】 11.4%	【通勤・通学】 10%以上 【通院】 20%以上	令和12年度
6	指標9 公共交通の維持・確保にかかる市の財政支出額	実績	299,841千円 (令和6年度)	260,000千円以下	毎年度
	指標10 路線バス・市運行生活交通路線の収支率	運行実績	実績値	収支率の改善	毎年度
	指標11 地域別公共交通運営協議会の設立件数	実績	1件(総領)	毎年度1件以上 (計7件)	毎年度

## (2) 計画の推進体制

本計画の評価・検証及び事業推進は、「庄原市地域公共交通ワーキング会議」で施策の進捗と評価指標を検証し、全体の法定協議会である「庄原市地域公共交通会議」で計画の達成状況や今後の取組方針を審議することで進めます。また、新たに任意組織として地域別公共交通運営協議会の設立を進め、各地域の実情に応じた公共交通の改善や見直し、具体的な事業内容の検討を推進します。

会議体	役割	主な構成員
庄原市地域公共交通会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域公共交通計画の策定及び変更の審議・決定</li> <li>計画に掲げられた評価指標等の検証</li> <li>運行形態・運賃等の協議・決定</li> </ul>	交通事業者、沿線住民代表、学識経験者、国土交通省、広島県、関係者等
庄原市地域公共交通ワーキング会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画に掲げられた評価指標等の検証</li> <li>公共交通改善案(ダイヤ・接続改善等)の調整</li> <li>新規事業の具体的な内容検討、進捗管理</li> </ul>	交通事業者、地域関係者や関係主体、学識経験者等
《新規》地域別公共交通運営協議会(仮称)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の課題・地域特性に応じたサービス検討</li> <li>各種取組企画・実施と利用促進等の検討・実施支援</li> <li>地域別アクションプランの策定・進捗管理</li> </ul>	各地元の交通事業者、地域関係者や関係主体、地域住民代表等

# 第2期 庄原市地域公共交通計画-概要版-

令和8(2026)年3月 庄原市

## 1. 地域公共交通計画の背景と目的

庄原市(以下、「本市」という)では、地域公共交通は地域の基本的な社会基盤であるとの視点から、地域や利用者の特性に応じた生活交通ネットワークの形成に加え、持続可能性のある地域旅客運送サービスの提供を確保するため、地域公共交通計画を令和3(2021)年5月に策定し、地域公共交通の見直しやデジタル技術を活用したデマンド交通サービスの導入等、地域の実情に応じた新たな交通サービスの導入を進めてきました。

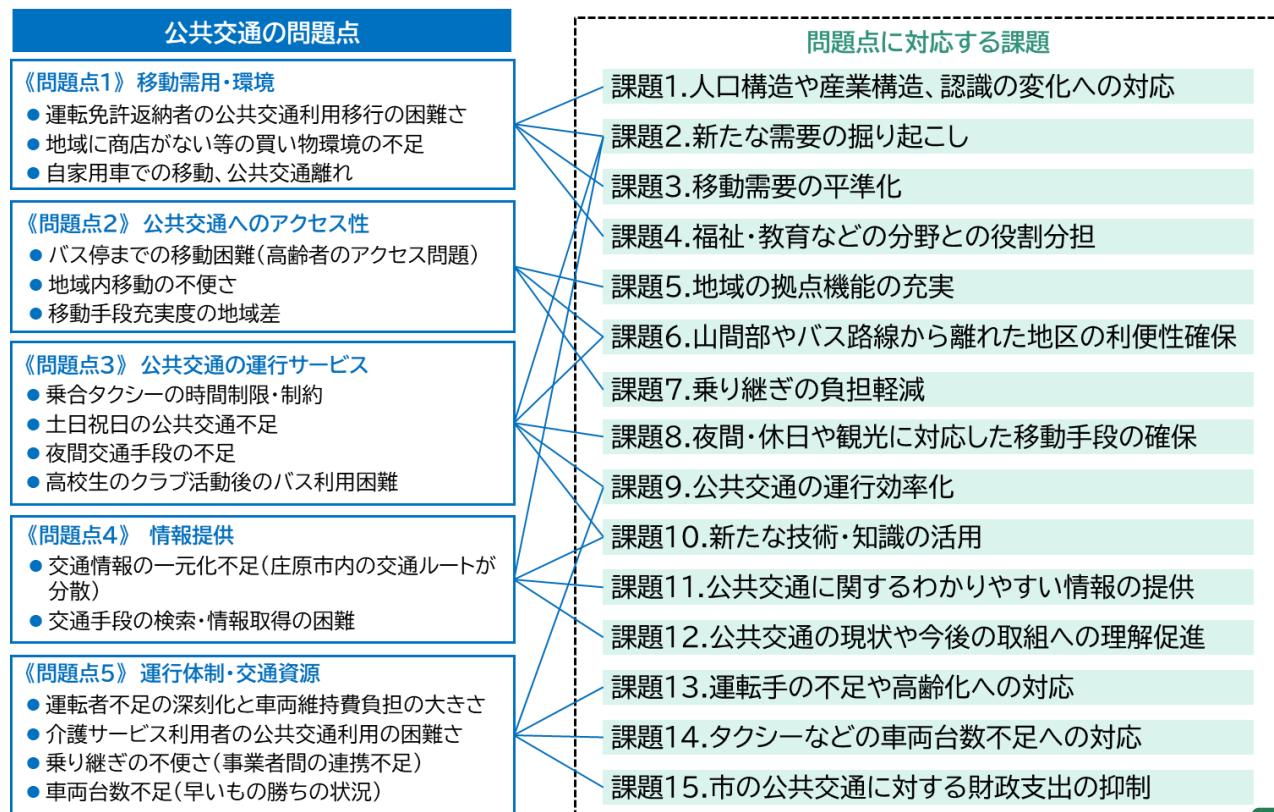
しかしながら、本市は自家用車の利用割合が高い地域であることに加えて、人口減少と少子化の進展により公共交通の利用者は減少傾向にあるほか、運転手不足や運転手の高齢化といった供給側の課題も深刻化するなど、地域公共交通における課題は多岐にわたってきています。そのような状況の中、本市では各地域や交通事業者・各種団体が公共交通の様々な取組を実施しており、こうした状況を踏まえ、地域公共交通会議内にワーキング会議を設置し、公共交通の問題、今後5年間の公共交通の役割やあるべき姿を5回にわたり議論してきました。

このような関係者との議論の内容を踏まえ、「誰もが必要な時に必要な場所へ移動できる地域公共交通」の実現を目指し、本市における地域公共交通のマスタープランとなる新たな第2期庄原市地域公共交通計画(以下、「本計画」という。)を策定しました。

計画の期間 : 令和8(2026)年度から令和12(2030)年度の5年間  
 計画の範囲 : 庄原市全域

## 2. 地域公共交通計画の問題点と課題

公共交通に対する現状診断や地域公共交通ワーキング会議における意見交換・議論、市民アンケート調査や高校生アンケート調査、交通事業者や各地域へのヒアリング等の各種調査を通じて、庄原市における公共交通の問題点と対応する課題を次のように抽出・整理しました。



### 3. 地域公共交通計画の目指す姿と実現したい公共交通ネットワーク

#### (1) 目指す姿と基本理念

##### 地域公共交通の目指す姿

1. 公共交通により社会参加の機会が確保され、市民が**生きがいを持って元気に暮らしている**
2. 公共交通によって外出回数が増え、人々の交流が促進されることで、**まちが賑わっている**
3. 公共交通を使って通学・通勤や通院、買い物の目的で移動できる、**地域の特性に応じた効率的で柔軟な交通サービスが提供**されている
4. 夜間や休日にも**公共交通を利用して外出・移動・帰宅**できる
5. 公共交通を利用して、**近隣の都市との間を移動**できる
6. 多様な主体が連携・協働によって、公共交通が**持続可能なもの**となっている

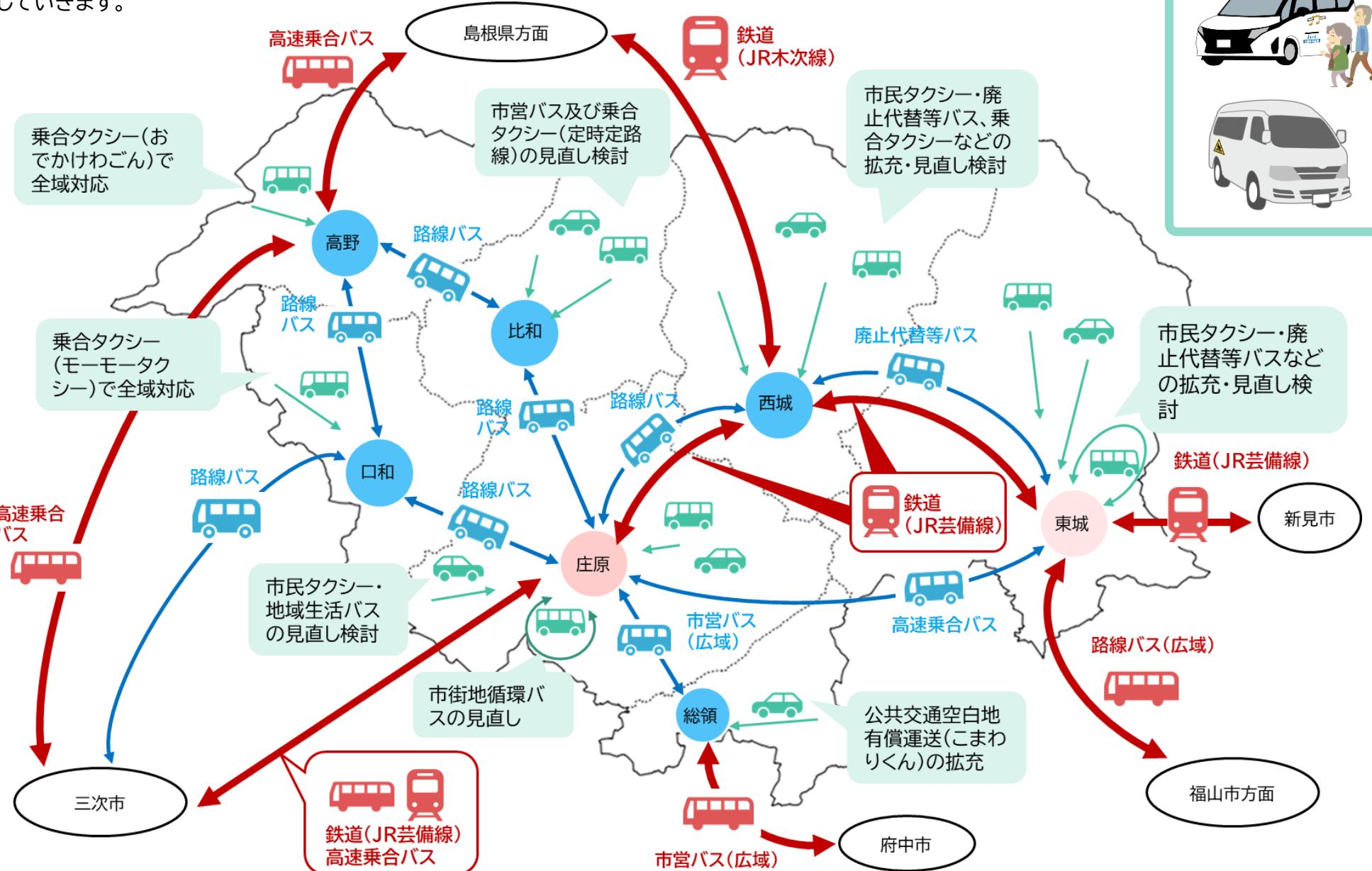
ワーキング会議で議論された公共交通の役割、望ましい公共交通の姿と上位計画で示された理念やまちづくりの方向性を踏まえ、本市の公共交通の目指す姿(理想像)と基本理念を設定しました。

##### 計画の基本理念

**誰もが必要な時に必要な場所へ移動できる  
地域公共交通の実現**

#### (2) 地域公共交通ネットワークの実現イメージ

広域幹線軸と市内幹線軸によって広域や地域及び拠点間の移動を確保しつつ、地域の実情に応じた地域内交通を組み合わせる施策の展開によって最適な公共交通ネットワークの構築を目指していきます。



##### 交通空白解消に向けて検討する交通モード

公共ライドシェア

福祉輸送

スクールバスや自家用車の有効活用

位置づけ	役割と対応する交通モード
<b>広域幹線軸</b> 	市外と都市拠点を結び、住民や来訪者の広域的な移動を担う <ul style="list-style-type: none"> <li>鉄道 (JR芸備線・木次線)</li> <li>高速乗合バス</li> <li>路線バス(三城線、油木・東城線等)</li> <li>他市町まで運行する市営バス(上下・総領線)</li> </ul>
<b>市内幹線軸</b> 	都市拠点と地域拠点等を結び、住民の日常的な移動需要に対応する <ul style="list-style-type: none"> <li>市内を運行する路線バス、廃止代替等バス、高速乗合バス</li> <li>地域間を運行する市営バス(庄原・総領線)</li> </ul>
<b>支線</b> 	地域内の移動需要を満たし、幹線・支線へ接続し地区外の移動に対応する <ul style="list-style-type: none"> <li>市街地循環バス</li> <li>地域生活バス</li> <li>廃止代替等バス</li> <li>市営バス 等</li> <li>予約乗合タクシー</li> <li>公共交通空白地有償運送(公共ライドシェア)</li> <li>市民タクシー 等</li> </ul>

## 4. 計画の施策体系

設定した目指す姿や地域公共交通ネットワークを本計画における基本的な方針として、ワーキング会議での議論を踏まえてそれらを実現するための道筋である「戦略」と、戦略実行における具体的な取組である「事業」を設定しました。課題と課題解決の方向性(基本的な方針)、戦略の関係性は次のとおりです。

### 庄原市における公共交通の課題

- 課題1. 人口構造や産業構造、認識の変化への対応
- 課題2. 新たな需要の掘り起こし
- 課題3. 移動需要の平準化
- 課題4. 福祉・教育などの分野との役割分担
- 課題5. 地域の拠点機能の充実
- 課題6. 山間部やバス路線から離れた地区の利便性確保
- 課題7. 乗り継ぎの負担軽減
- 課題8. 夜間・休日や観光に対応した移動手段の確保
- 課題9. 公共交通の運行効率化
- 課題10. 新たな技術・知識の活用
- 課題11. 公共交通に関するわかりやすい情報の提供
- 課題12. 公共交通の現状や今後の取組への理解促進
- 課題13. 運転手の不足や高齢化への対応
- 課題14. タクシーなどの車両台数不足への対応
- 課題15. 市の公共交通に対する財政支出の抑制

### 課題解決の方向性(基本的な方針)

#### 地域特性に応じた多様な交通サービスの構築

人々の暮らしを支えるため、地域ごとの移動ニーズや生活スタイルに対応した、柔軟で利用しやすい交通サービスを提供します。

#### 広域交通ネットワークの維持・強化

近隣都市との移動手段を確保し、市内交通との接続を改善することで、広域的な移動を支えます。

#### 地域拠点を活用した公共交通の充実

交通結節点となる地域拠点の機能強化・充実を図り、拠点を中心に置いた使いやすい公共交通網を構築します。

#### まちづくりや他の分野とも連携した公共交通の魅力向上

福祉・健康・観光等の施策と連携し、公共交通を単なる移動手段としてだけでなく、外出や交流を促進するツールになるよう魅力向上に取り組みます。

#### 利用者の視点に立った情報提供とコミュニケーション

わかりやすい情報提供と地域との対話を通じて、誰もが安心して利用できる環境を整えます。

#### 多様な主体との共創による持続可能な公共交通の実現

行政・事業者・地域が協働し、効率化と担い手確保により安定的で持続可能な公共交通を構築します。

### 目指す姿を実現するための戦略

#### 戦略1 地域に適した交通モデルの構築

主な事業: 多様な交通モードによる地域内交通(支線)の構築、地域の輸送資源活用、移動需要のコーディネート、福祉施策と連携した交通モデルの検討 等

#### 戦略2 拠点の機能強化

主な事業: 交通結節点における利用環境整備、自治振興センター等の交通拠点化、移動需要の創出 等

#### 戦略3 拠点間を結ぶ公共交通軸の確保・強化

主な事業: 都市拠点における回遊性向上、都市拠点へのアクセシビリティ向上、幹線・支線の連携強化 等

#### 戦略4 公共交通を活かした観光とまちの賑わい創出

主な事業: 観光二次交通ネットワークの構築、観光・交流促進と連携した公共交通の魅力向上 等

#### 戦略5 わかりやすい情報提供と公共交通の利用促進

主な事業: わかりやすい情報提供、地域住民の参画 等

#### 戦略6 地域交通の人材確保・育成とマネジメント体制の構築

主な事業: 公共交通の担い手育成・確保、新たな運転人材の活用 等

#### 戦略7 交通事業者の経営安定化と公共交通の効率化

主な事業: 経営安定化に関わる支援、新たな収入モデルや多様な料金体系の導入、公共交通の効率化 等

#### 戦略8 計画のマネジメント体制の構築

主な事業: 地域に適した運用体制構築、地域・住民参加型による公共交通づくりの推進 等

## 5. 戦略（施策）と事業の内容

※事業の内容は本編より代表的な事業を抜粋して掲載

### 【戦略1】地域に適した交通モデルの構築

既存の地域公共交通の見直し・拡大、新技術(ITの活用等)や様々な輸送手段(タクシー、スクールバス、福祉車両、住民の自家用車等)等を活用し、地域に適した交通サービス充実させます。

#### 主な事業内容（一部抜粋）

##### 【事業1-1】多様な交通モードによる地域内交通(支線)の構築

生活路線の見直しと合わせて、市民タクシーの制度改善と運行拡大、乗合タクシー(デマンド交通)の見直しや運行拡大を推進します。

##### 【事業1-2】地域の輸送資源活用

自家用車を活用した交通空白や公共交通の供給不足に対応するため公共ライドシェアや無償運送の活用、スクールバスの空き時間の活用等を検討します。

### 【戦略2】拠点の機能強化

各地域の自治振興センター周辺等を交通の結節点として整備し、地域内移動の起点・終点機能、交通機関同士の接続を充実させるとともに、都市拠点は広域連携の玄関口としての機能を強化します。

#### 主な事業内容（一部抜粋）

##### 【事業2-1】交通結節点における利用環境整備

鉄道駅の待合環境整備や交通結節点におけるバリアフリー化の推進や学習スペースの設置等、生徒が待てる(集まる)環境整備等、交通結節点整備に取り組みます。

##### 【事業2-2】自治振興センター等の交通拠点化

各地域の自治振興センター等を交通の拠点・交通結節点として位置づけて整備します。(待てる環境の整備、待合スペースにおける情報提供機能の充実、催しとの連携等)

### 【戦略3】拠点間を結ぶ公共交通軸の確保・強化

拠点間を結ぶ市内幹線軸や広域幹線軸を維持・確保し、その連携や利便性の向上を図ります。

#### 主な事業内容（一部抜粋）

##### 【事業3-1】都市拠点における回遊性向上

庄原地域や東城地域の中心部において、市街地循環バスをより利用しやすくするための運行見直しを検討・実施します。

##### 【事業3-3】広域幹線軸の維持・確保と幹線軸・支線の連携強化

地域間を運行する公共交通の維持・確保、幹線(庄原中心部・各地域拠点間)と支線(地域内)の役割分担を明確化し、接続ダイヤ等の最適化に努めます。

### 【戦略4】公共交通を活かした観光とまちの賑わい創出

公共交通を観光振興やまちづくりと一体的に推進し、移動と楽しい体験をセットにした来訪促進や地域の賑わい創出を図ります。z

#### 主な事業内容（一部抜粋）

##### 【事業4-1】観光二次交通ネットワークの構築

JR芸備線と接続する観光向けの二次交通の運行を継続実施し、観光と連携した公共交通の企画を検討します。

### 【戦略5】わかりやすい情報提供と公共交通の利用促進

公共交通を使いやすくなるような、情報提供の充実と交通事業者と連携した利用促進を図ります。

#### 主な事業内容（一部抜粋）

##### 【事業5-1】わかりやすい情報提供

交通結節点における多言語対応、音声案内、観光・地域情報の提供等、観光部門と連携した情報発信を検討・実施します。

##### 【事業5-3】移動需用の創出

複数の交通モードで利用ができ、外出促進に繋がる市民向け公共交通の乗り放題フリーパスの導入を検討・実施します。

### 【戦略6】地域交通の人材確保・育成とマネジメント体制の構築

持続可能な地域交通を支える人材の確保・育成と、効果的な運営管理体制を構築します。

#### 主な事業内容（一部抜粋）

##### 【事業6-1】地域公共交通の担い手育成・確保

バス・タクシー事業者のドライバー確保支援や運転手の資格取得支援制度を検討します。

##### 【事業6-2】移動を支える運転人材の活用

令和6年度から実施している夜間交通サービス(よるくる等)の実証結果を踏まえて、タクシーを含めた交通事業者による運行が困難な地域や時間帯において、ライドシェアの制度を活用した住民ドライバーの登録制度等の仕組みを検討します。

### 【戦略7】交通事業者の経営安定化と公共交通の効率化

持続可能な地域交通を支える人材の確保・育成と、効果的な運営管理体制を構築します。

#### 主な事業内容（一部抜粋）

##### 【事業7-1】経営安定化に関わる支援

交通事業者の経営安定化に関わる支援として、市内の交通事業者への委託・補助制度を継続し、社会環境の変化に応じて適宜見直しを行います。

##### 【事業7-2】新たな収益モデルや多様な料金(運賃)体系の導入

広告や貨客混載による収入確保や高速バス・鉄道をセットにした乗車券の販売、市内における適切な運賃検討等、収益確保に繋がる取組を検討・実施します。

##### 【事業7-3】公共交通の効率化

定時定路線から区域運行のデマンド型交通や市民タクシーへの転換等、車両の小型化等を含めた需要に応じた車両の適正化、デジタル技術(配車支援システム等)を活用したデマンド交通の乗り合わせの促進等を検討します。

### 【戦略8】計画のマネジメント体制の構築

地域住民や自治振興区との継続的な対話を通じて、公共交通への理解を深め、地域が主体的に関わる協働体制を構築します。

#### 主な事業内容（一部抜粋）

##### 【事業8-1】地域に適した運営体制構築

各地域で地域の実情に合った事業の推進や公共交通の維持・確保に係る意識の醸成を図るため、任意組織として地域別公共交通運営協議会の設立を推進します。